

たとへこの室を

たとへこの室を暗くしてしまつたとしても  
あの花だけはほんのりと壁の側で光るであらう  
やがて散るであらう お前のやうに  
しづかな夜に 月もなく

遠い地点で恋しあつたことも  
抱きあひながにくみあつたことも  
お前の美しい瞳に ためらひながら  
しづかな くちづけしたことも

悪魔がどこかに居るのではないか  
冬木立がはげしくゆれる日は  
木の芽と木の芽とがするどくぶつかりあふといふ

私たちはいつも荒れている  
からだを潮のやうなものが流れ  
わけもなく 私はお前におそひかかる